

第32期目録委員会記録 No.5

第5回委員会

日時：2009年9月12日（土）14～17時

場所：日本図書館協会5階会議室

出席：原井委員長、東、木下、酒見、鴫田、平田、古川、横山、渡邊

<事務局>磯部

[配付資料]

1. 目録の利用と作成に関する調査（6ページ-A4、木下委員）
2. IFLAミラノ大会参加報告（3ページ-A4、原井委員長）
 - 参考資料1 IFLA Cataloguing Section's FRBR Review Group Report of Activities 2008-2009(2ページ-A4、原井委員長)
 - 参考資料2 IFLA Cataloguing Section's ISBD Review Group Status report of Activities 2008-2009(4ページ-A4、原井委員長)
 - 参考資料3 IFLA Cataloguing Section's "Names of Persons" Report of activities and proposal 2008-2009(2ページ-A4、原井委員長)
 - 参考資料4 From FRBR to FRAD : Extending the Model(10ページ-A4、原井委員長)
 - 参考資料5 Introducing FRSAD and Mapping it with SKOS and other models(10ページ-A4、原井委員長)
 - 参考資料6 News of ISBD(9ページ-A4、原井委員長)
 - 参考資料7 IFLA News of ISBD（5ページ-A4、原井委員長）
 - 参考資料8 UNIMARC, RDA and the Semantic Web(9ページ-A4、原井委員長)
3. IFLA Cataloguing Section ISBD Review Group Summary of the 3 ISBD Group Meetings and the ISBD-XML meeting held in Milan（6ページ-A4、渡邊委員）
4. IFLA FRBR Working Group on Aggregates（4ページ-A4、古川委員）
5. RDA付録Mレビュー（Personal Name 5, Family Name 2, and Corporate Name 1-2）（3ページ-A4、古川委員）
6. RDA draft Appendix M（4ページ-A4、原井委員長）
7. RDA草案 付録M（著作2,4,6）（2ページ-A4、横山委員）
8. RDA付録Mレビュー（Work 1,5,7 & Expression 1,2）（3ページ-A4、渡邊委員）
9. 第32期目録委員会記録 No.3（3ページ-A4、事務局）
10. 第32期目録委員会記録 No.4（案）（3ページ-A4、事務局）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

第4回記録案（資料10）を確認した。

[検討事項]

1. 目録に関する調査について

木下委員から、前回の委員会での意見を反映して修正した調査シート案（資料1）について説明があった。案に対する意見は下記の通り。

- ・外部委託については、一部か全面的かなどの問いを入れる。
- ・目録データベース作成と外部委託のところの重複している設問を整理する。
- ・書誌データの作成の委託、提供、購入の区別を「外部委託」と「購入」と分けた設問にし、何を知りたいか、まとめたときにどう評価するかを明確にする。
- ・分類番号 分類記号、AV資料 視聴覚資料、電子情報資源 電子資料に修正する。
- ・OPACで提供する情報についての設問があるが、OPACで提供する機能についての設問がない。Web2.0、次世代OPAC的機能などの動きについての設問も必要ではないか。
- ・前回の調査との比較と現在聞きたい設問を整理し、不要な項目を削除し、新しい項目を立てる。
- ・2-7の「索引化」という言葉はわかりにくいいため、「キーワードに利用できる」と言い換える。選択項目をタイトル、著者名などの基本的な項目と、内容細目、件名、分類などに分ける。
- ・2-8、2-9のOPACのヘルプ機能、補助機能を、システムの外側、内側で行うことに整理する。

今回出た指摘事項を反映した案は次回までに木下委員が作成することとなった。調査シートは今年度中に固め、公共図書館の関係者に試しに回答してもらうことになった。

来年度には発送、4-6月に回答を集め、夏に入力、まとめをするというスケジュールを検討した。

事務局からは調査に関しては了承を得て、報告書を出してほしいとの希望が出されている。事務局の試算で、公共図書館は本館のみ、大学図書館はすべての図書館室を調査の対象にすることを想定している。分館等で目録業務が異なる場合には、本館の判断で配布してもらうことになった。

2. IFLAミラノ大会参加報告について

原井委員長から資料2に基づき、IFLAミラノ大会について報告があり、意見を交換した。

- ・IFLAの部会の組織が再編され、今大会後は書誌調整部会がなくなり、各分科会は図書館サービス部会の中に統合される。
- ・FRAD、FRBRoo ver.1.0の刊行、FRSADのドラフトのレビューなどがあり、それらの世界と目録との連携や、セマンティック・ウェブの対応の動向を知ることが今後欠かせない。

- ・ミラノ大会ということで、イタリアの目録事情に触れる機会が多かったが、イタリアの新しい目録規則REICATは、FRBRなど国際的な書誌情報の動きを取り入れているので、注目したい。

3. IFLA Cataloguing Section ISBD Review Group Summary of the 3 ISBD Review Group Meetings and the ISBD-XML meeting held in Milanについて

資料3をもとに渡邊委員から次のとおり紹介があった。

- ・ISBD RDF/XML SchemaがAcceptedになっている。ISBDのように要素の順序、区切りがあるもののRDF化はどういうイメージなのか分からない。

- ・CJKの逐次刊行資料のタイトルの重要な変化については、long time discussionが必要だと言われている。

- ・ISBD - ISOについて検討したが、自由にコントロールができなくなるため行わないとなった。

4. IFLA FRBR Working Group on Aggregates

資料4をもとに古川委員から次のとおり紹介があった。

- ・aggregates(集合)について2つのモデルが提示され、両者の異同を対照したテーブルが用意された。a案は複数の表現形を具現化した一つの体現形が、b案は個々の著作から成る一つの著作が、aggregatesであると定義する。

- ・a案の著作の次元はnon-recursiveだが、b案の著作はrecursiveである。b案では、表現形以下はそれぞれの中に階層をもたないが、著作には複数の著作からなる著作があると考える。

- ・a案は書誌レコードの作り方が簡便で、b案は書誌レコードの数が増えて複雑になる。

5. 今後のNCRの方向性について

RDA最終草案の検討が一通り終わるため、NCRの方向性について意見を交換した。

- ・次回図書館大会で目録委員会も分科会を持ち、NCRの方向性を提示し、広く意見交換を試みる必要がある。

- ・目録委員会の今後の課題として、どこまでセマンティック・ウェブに対応するか、RDAと歩調を合わせるかなどの大きい枠組みを検討してゆく必要がある。

6. RDA最終草案 付録M(事例集)について

資料5～8について各委員から説明があり、意見を交換した。

- ・団体名3 RDA29.5は規定された言葉で関連を記録することになっているが、MARCではなされていない。

- ・団体名5 MARCにはRelationship designatorをうまく表すところがない。Group memberを入れるところがなく、タグ678の文章の説明を読まないと分からない。MARCにはRelater

のコードが足りない。

・表現形1 翻訳の場合、翻訳者が示されないので、翻訳が複数あったときの区別をどう表すかが分からない

・著作2 音楽作品は項目が対応している場合が多いが、Form of Worksは、Quintetに対応項目がなく、タグ670から読み取らなくてはならない。

・著作4 著作のレベルでOriginal languageが出てくるのは異質だが、条約が作られた言語が必要だからか。

・表現形2 実演を示す表現形を分けるなら、翻訳もそうすべきでは。

・例示が著作は7つあるが、表現形は2つしかなく、表現形のレベルが難しい。

次回以降の委員会の予定

10月24日（土）

11月28日（土）

以上